

布引の歌碑

◆布引の歌碑

明治のはじめ頃（明治5年か）、花園社という市民団体ができ、滝の周辺を布引遊園地として、平安時代から江戸時代にかけて詠まれた布引の滝の名歌の碑36を建てた。これらはその後散逸してしまい、1934（昭和9）年に当時の神戸市観光課が18基を復興し、これらのうち17基（1基は阪神淡路大震災で喪失）は現在でも新神戸駅からみはらし展望台に至るハイキング道沿いに点在している。近年、中央区役所が未復興のうち14基を復興した。以下に、現存する歌碑及び未復興の歌碑の歌を掲げておく。

- ・布引の滝のしらいとなつくれは 絶えずそ人の山ちたつぬる

（藤原定家、歌番1）

- ・あしのやの砂子の山のみなかみを

のほりて見れば布ひきのたき

（藤原基家、歌番2）

- ・布引の滝の白糸わくらはに

訪ひ来る人も幾代経ぬらむ

（藤原行能、歌番3）



歌番3

- ・津の国の生田の川の水上は 今こそ見つれ布引の滝

（藤原基隆、歌番4）

- ・水の色たた白雪と見ゆるかな

たれ晒しけむ布引のたき

（源顕房、歌番5）

- ・音にのみ聞きしはことの数ならて

名よりも高き布引の滝

（藤原良清、歌番6）



歌番6

- ・さらしけむ甲斐もあるかな山姫の

たつねて来つる布引の滝

（藤原師実、歌番7）

- ・山人の衣なるらし白妙の 月に晒せる布引の滝

（藤原良経、歌番8）

- ・山姫の嶺の梢にひきかけて 晒せる布や滝の白波

（源俊頼、歌番9）

- ・幾世とも知られぬものは白雲の 上より落つる布引の滝

（藤原家隆、歌番10）

- ・いかなれや雲間も見えぬ五月雨に さらし添らむ布引の滝

（藤原俊成、歌番11）

- ・岩はしるおとは氷にとさされて 松風おつる布引のたき

（寂蓮、歌番12）

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

布引の歌碑

- ・白雲とよそに見つれと足曳きの 山もととろに落つる滝津瀬
(源経信、歌番13)

- ・水上の空に見ゆれば白雲の

立つにまかへる布引の滝

(藤原師通、歌番14、生田川公園内に復興)

- ・呉竹の夜の間に雨の洗ひほして

朝日に晒す布引の滝

(西園寺実氏、歌番15、生田川公園内に復興)



歌番 15

- ・うちはへて晒す日もなし布引の 滝の白糸さみたれの頃

(藤原為忠、歌番16、生田川公園内に復興)

- ・水上は霧たちこめて見えねとも 音そ空なる布引のたき

(高階為家、歌番17、生田川公園内に復興)

- ・水上はいつこなるらむ白雲の 中より落つる布引の滝

(藤原輔親、歌番18、未復興)

- ・岩間より落ち来る滝の白糸は むすはて見るも涼しかりけり

(藤原盛方、歌番19、未復興)

- ・松の音琴に調ふる山風は

滝の糸をやすけて弾くらむ

(紀貫之、歌番20)

- ・たち縫はぬ紅葉の衣そめ出でて

何山姫のぬの引の滝

(順徳院、歌番21)



歌番 21

- ・ぬきみたる人こそあるらし白たまの まなくもちるかそでの狭き
に (在原業平、歌番22)

- ・我世をは今日か明日かと待つ甲斐の 涙の滝といつれ高けむ

(在原行平、歌番23)

- ・こきちらすたきのしら玉拾ひおきて 世のうきときのなみたにそ
かる (在原行平、歌番23別碑)

- ・雲井よりつらぬきかくる白弾 たれ布引のたきといひけむ

(藤原隆季、歌番24、未復興)

- ・久かたの天津乙女の夏衣 雲井にさらす布引のたき

(藤原有家、歌番25)

- ・ぬのひきのたき見てけふの日は暮れぬ 一夜やとかせみねのささ
竹 (澄覚法親王、歌番26 - 震災で喪失 -)

- ・布引のたきつせかけて難波津や 梅か香おくる春の浦風

(澄覚法親王、歌番26同碑 - 同上 -)

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

